

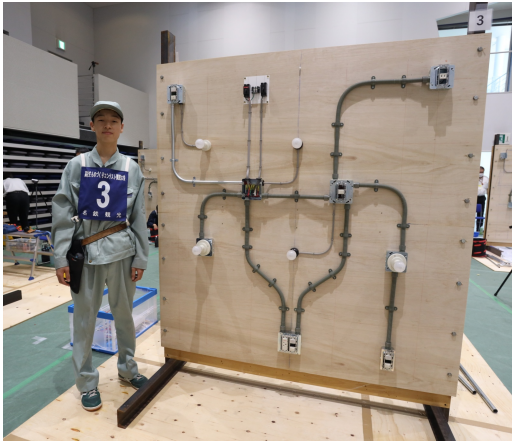
# 葦崎工高新聞

## 9月号

発行所  
葦崎工業高校  
新聞委員会

# 関東甲信越電気工事コンテストで6位入賞

## 若年者ものづくり競技会 出場権獲得



完成した配線パネルと小澤さん

第21回関東甲信越地区電気教育研究会電気工事コンテスト群馬大会が8月27日、太田市体育行政センター（群馬県太田市）で行われ、小澤菜希さん（2年）が出場し、6位入賞した。今大会の1位から5位までは3年生、2年生の中でトップの成績であったことから、来年の夏に行われる第18回若年者ものづくり競技大会電気工事職種への出場が決まった。

コンテストは縦横1・82cmの垂直パネルに競技規定に従って、施工図および施工条件に示す配線工事を2時間で行う。

小澤さんは作業時間1時間57分08秒と参加者の中で3番目に作業を終えた。小澤さんは「大会に向けて、夏休みから練習を始め、一日2回、午前と午後練習を行った。苦勞した点は、タイムを縮めながら正確に行うこと、常に作業机をきれいにしておくことが大変だった。夏休み毎日、練習したこともあり、6位を占めることができた」と大会を振り返った。また、来年の若年者ものづくり競技会について、「上位入賞を目指して頑張りたい」と抱負を語った。

（飯嶋）

この夏、電気工事、旋盤加工の工業系コンテストの県予選が行われ、各部門で素晴らしい成績を取った。

電気工事部では、県予選が8月9日に行われ、小澤菜希さん（2年）が優勝し、第21回関東甲信越地区電気教育研究会電気工事コンテスト群馬大会に出場し、6位入賞した。旋盤加工では山梨県予選が8月10日に行われ、樋口楊一朗さん（3年）が出場し、準優勝した。

## eスポーツ関東予選に出場 あと一步のところで逃す



チームや選手を選び、対戦準備を行う紫芝さん

全国都道府県対抗eスポーツ選手権2022 TOCHIGI eFootball部門の関東ブロック代表決定戦が9月11日、つくば国際会議場（茨城県つくば市）で開催され、高校生の部に紫芝幸さん（1年）が出場した。結果は1回戦を0対0、PK戦6対5で勝ち、2回戦は1対2で敗退となった。

大会で使った「eFootball™」シリーズはコナミデジタルエンタテインメントが開発したサッカーゲーム。最初に、チーム、選手、戦術を設定し、10分間

で試合が行われる。紫芝さんは大会に向けて、プレイステーション4を使い、パス練習などを行ってきた。

紫芝さんは「本場の広さや観客の多さに緊張して、はじめは普段通りのプレイができなかったが、慣れてくると、とても楽しくプレイできた」と振り返った。eスポーツを知らない人が多いことについて、聞くと「ゲームは良くないと言つ人もいるが、eスポーツはほとんどが本物のスポーツと同じで、プレイするのも楽しいし、観ている人も盛り上がるのも良い所だ」と語った。今後、抱負について「全国大会出場を目指している」と話した。

（清水美）

## 旋盤加工、県大会2位入賞

### 高校生ものづくりコンテスト県予選



材料の加工に集中して作業する樋口さん

高校生ものづくりコンテスト関東大会山梨県予選の旋盤加工部門が8月10日、産業技術短期大学校（行われ、本校からは樋口楊一朗さん（3年）が出場し、みごと2位を受賞した。

3時間で2つの材料を加工し、寸法の正しさや表面のきれいさなどで採点を

選んだ。大会の感想を樋口さんは「今回の大会に出場するための練習に山崎先生が指導および手助けをしてくれた。旋盤2級の資格経験が活き、少ない練習だったが本番では寸法通りのきれいな製品を加工するのびが良かった。僅差で2位だったがとても貴重な体験をすることができた」と語った。

高校生ものづくりコンテストは、高校生による工業技術・技能を競い合う大会で、高校生にものづくりへの興味・関心を高めるとともに、その技術の継承を図ることを目的として行われている。

（清水翔）

## 「富士五湖でドローンアートをしてみませんか！」

### 地域イベントを提案

～リアルファインディングinやまなし～

内外の学生16組が「山梨を元気に」をテーマに地域イベントのアイデアを提案した。

本間さんと古屋さんは「富士スカイアート」を提案した。内容は富士五湖で大量のドローンを飛ばし、アートを制作するというもの。提案の理由を本間さんは「山梨の自然を生かし、最先端技術を取り入れたかった」と話した。

参加した感想を、本間さんは「大学生の発表と社長さんたちの話が聞けて良かった」と、古屋さんは「高校生がほとんどいない中で、自分たちらしくできて、とてもうれしかった。良い経験になった」と語った。

（阿部）

## 砂畑さん 関東弓道大会に出場

第41回関東高等学校弓道個人選手権選抜大会が9月3日、4日に明治神宮皇誠館弓道場で開催された。本校弓道部から砂畑奏太さん（2年）が出場した。

砂畑さんは8月10日、20日に小瀬スポーツ公園武道館弓道場で行われた県予選に出場。決勝戦で



大会を終えた砂畑さん

は「練習をする中で、自分の思ったとおりの射ができなかったことが大変だった。関東大会に出場して感じたことは、やはり雰囲気が変わったこと。しかし、あまり緊張しなかった。とても良い経験となった」と語った。

（山ト）

## ニラテク

水災害を想定した避難訓練が8月26日の6校時の途中で行われた。この日の訓練は釜無川に

氾濫の恐れがあるという設定で行われた。本校は洪水浸水想定区域になっているので、とても重要な訓練である。本校が昔から俗称として「かまころ（釜高）」と呼ばれているのは、校舎の近くを釜無川が流れていることから。また、校歌の一節には「流れも清き釜無」という歌詞がある。それほど、本校と釜無川は関わりが深いのだ。釜無川は山梨県西部を流れている川で、富士川の上流部の通称名だ。山梨県は、昔から釜無川や笛吹川による水害に見舞われていた。甲斐市にある信玄堤は、武田信玄が釜無川の洪水を防ぐために作ったもの。その後、明治40年、昭和34年、昭和41年と台風による大災害が起きて釜無川も氾濫している。ここ近年、日本では河川の氾濫による水被害がいたるところで起きている。温暖化による気候変動の影響で、大雨、集中豪雨、台風などが増え、これからも水被害が起ることが予想されている。では、どのような対策を取れば良いのか。まずは自分の住む地域のリスクを知ること。ハザードマップの確認を行い、早い段階で避難することが大切である。

（坂本）

# 100人アンケート

## 18歳成人あなたはどのように思いますか？

成人年齢を18歳に引き下げる改正民法が今年の4月から施行された。新聞委員会では、「18歳に引き下げられたことを知っているか」「や」「何がかわるのか」について、葦生100人にアンケートを行った。

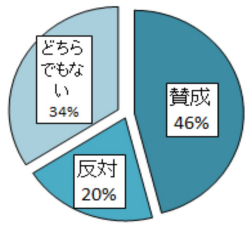
18歳成人「知っている」97%

「成人年齢が18歳に引き下げられたことを知っているか」については「知っている」が97%、「知らない」が3%であった。ほぼ全員が、成人年齢が18歳になったことを知っていることが分かった。

容も知っている人は半数強ということが分かった。

「知っている」と答えた64人に「引き下げられたことで知っていること」について聞いてみると「親の同意なしでクレジットカードの同意なしでクレジットカードが作れる」が47人、「親の同意なしで携帯電話の契約ができる」が40人、「親の同意なしでローンが組める」が35人、「女性の結婚可能年齢が16歳から18歳になり男女ともに18歳になった」が34人の4項目が多く、続いて「親の同意なしでアパートの契約ができる」が26人、「10年有効のパスポートが取得できる」が12人であった。

### Q 18歳成人に賛成か？



「早く自立できる」「早く大人になれる」「働き始めるので、自分でいろいろな契約をすることが出来る」が多かった。「反対」の理由は「高校生には責任が重すぎる」「18歳に下げる必要がない」が多かった。

## 18歳成人で変わったこと

- ◆保護者の同意がなくても契約できるクレジットカードが作れる
  - ◆ローンを組める
  - ◆携帯電話の契約
  - ◆アパートの契約 など
  - ◆10年有効のパスポート取得
  - ◆公認会計士や司法書士、医療免許などの国家資格の取得
  - ◆結婚年齢が男女ともに18歳に
  - ◆性同一性障害の人が性別の取扱いの変更審判が受けられる
- ※飲酒、喫煙、競馬や競輪などの投票券購入は20歳のままです。

### 選挙に行くのは6割

選挙権については2016年6月に公職選挙法が改正され、20歳以上から18歳になっている。そこで、選挙についても聞いてみた。「18歳になり選挙権があるが選挙に行くか」については、「行く」が67%、「行かない」が18%、「わからない」が15%であった。「行く」という人の理由は「選挙に参加してみたい」「休

暇み明けから、女團や各階の廊下に設置されている電光掲示板は、夏休みの間に、今年、本校は60歳を迎え、その記念事業の一つとして設置された。記念事業を担当している両宮大輔先生に詳しいことを聞いた。

## 60周年記念事業で学校生活快適に 廊下に電光掲示板が設置される

夏休み明けから、女團や各階の廊下に設置されている電光掲示板は、今年、本校は60歳を迎え、その記念事業の一つとして設置された。記念事業を担当している両宮大輔先生に詳しいことを聞いた。

景を見てもらえなくても活用している。電光掲示板のほか、60周年を祝う記念式典、学校自動車、フットボールの更新、学校PR動画の作成を記念事業として取り組んでいる。

今回、18歳成人についての記事を書いた。100人のアンケート結果を使い、わかりやすくまとめた。文を組み立てることも、とても難しかった。18歳になることで、何を今度の記事を読んでもわかるようにしているのか、ぜひ、読んでほしい。

編集後記  
編集担当  
坂本優良、宮澤一貴、清水翔太、樋口楊朗(3年)、山下花琳、阿部さくら、飯嶋香太郎(2年)、清水美佳(1年)  
〇四コマ漫画担当  
清田ユキオ(1年)  
〇パンフレット担当  
長田空(2年)



清水 誠二 先生  
教科・工業科(電気)  
(51歳)  
1988年度卒  
(昭和63年度卒)  
趣味はジョギング。好きな言葉は「継続は力なり」。教師を目指したきっかけは教育実習。

「学校生活に目標を持って過したかった」と。私たちに一言お願いします。

今年、本校は創立60周年を迎える。それを記念して、今回は本校卒業生の清水誠二先生(電気科)に、先生の高校時代について、聞いてみた。

## 部活や資格取得に取り組んだ高校生活

「当時の学園祭はどのような感じでしたか。」  
「いま(コロナ前)と変わらず、文化部門と体育部門がありました。内容も大きく変わっていないと思います。クラス製作で『お化け屋敷』を作ったことが楽しかった思い出です。」  
「当時の学園祭はどのような感じでしたか。」  
「陸上部。3年時の高校駅伝(男子)7位(16校中)、目標の関東大会出場(上位6校)が叶わず悔しい思いをしました。」  
「当時の学園祭はどのような感じでしたか。」  
「電気計測、電子計測、電力応用、電気工事、直流通安定化電源の製作など、いま電気科でやっている実習内容とほとんど変わっていません。1年生の工業基礎では機械科の実習(ガス溶接と文鎮製作)を体験しました。」  
「学校生活全般で思い出に残っていることは。」  
「部活や資格取得に取り組んだこと。部活の人数で互いの頭をバリカンで五厘刈りにしたこと。」  
「私たちに一言お願いします。」  
「学校生活に目標を持って過したかった」と。